

見どころ案内

展示会のご案内

- ◇展示資料館 1F (5/8~6/5)
- 趣味のボタニカルアート展
- ◇展示温室 (5/25~6/6)
- セントポーリアとイワタバコの仲間展
- ◇屋外展示場 (6/1~6/23)
- アジサイ展

モリアオガエルの卵

日本固有のカエルで、水面上にせり出した木の枝や草などに泡状の卵塊を産卵する変わったカエルです。安芸太田町加計では県の天然記念物に指定されています。

ハナショウブ (アヤメ科)

江戸系、伊勢系、肥後系、長井系、野生種などがあり、咲き始めています。江戸時代から連綿と受け継がれてきた菖翁花と呼ばれる、20品種しか残っていないもののうち18品種を保有しています。6月中~下旬まで観賞できます。

ウツギ (ウツギ科)

園内各所で野生化しており、白い花が咲いており、果実もついています。幹が空洞なので空木、あるいは旧暦の4月(卯月)頃に花を咲かせるので卯木になつたといわれています。

ベンガルボダイジュ (クワ科)

熱帯アジア原産の常緑樹で大きいものは高さ30mにもなります。インドでは聖樹の一つとして大切にされています。現在、非常に小さいですが、スロープデッキより赤いイチジク状果を見ることができます。

コバノズイナ (ズイナ科)

北米東部原産で、現地では湿地や小川の辺などに自生しています。美しい花を咲かせるので、観賞用として広く栽培され、明治初期に渡来し、庭木や生け花の材料として利用されています。ブラシ状の花序を多く出し、白色の小花を沢山咲かせています。

ブラシノキ (フトモモ科)

オーストラリア原産の植物で、名前の通りコップを洗うブラシのような形をしています。ブラシノキは極端な乾燥や森林火災などの時に種を散布する特性があり、これは競争相手がいないときに種をまくことで、生存競争を有利にしています。

カルミア (ツツジ科)

北米東部原産の常緑樹。庭木などに利用され、蕾は金平糖のような形で、開花すると五角形で椀型の花を咲かせます。

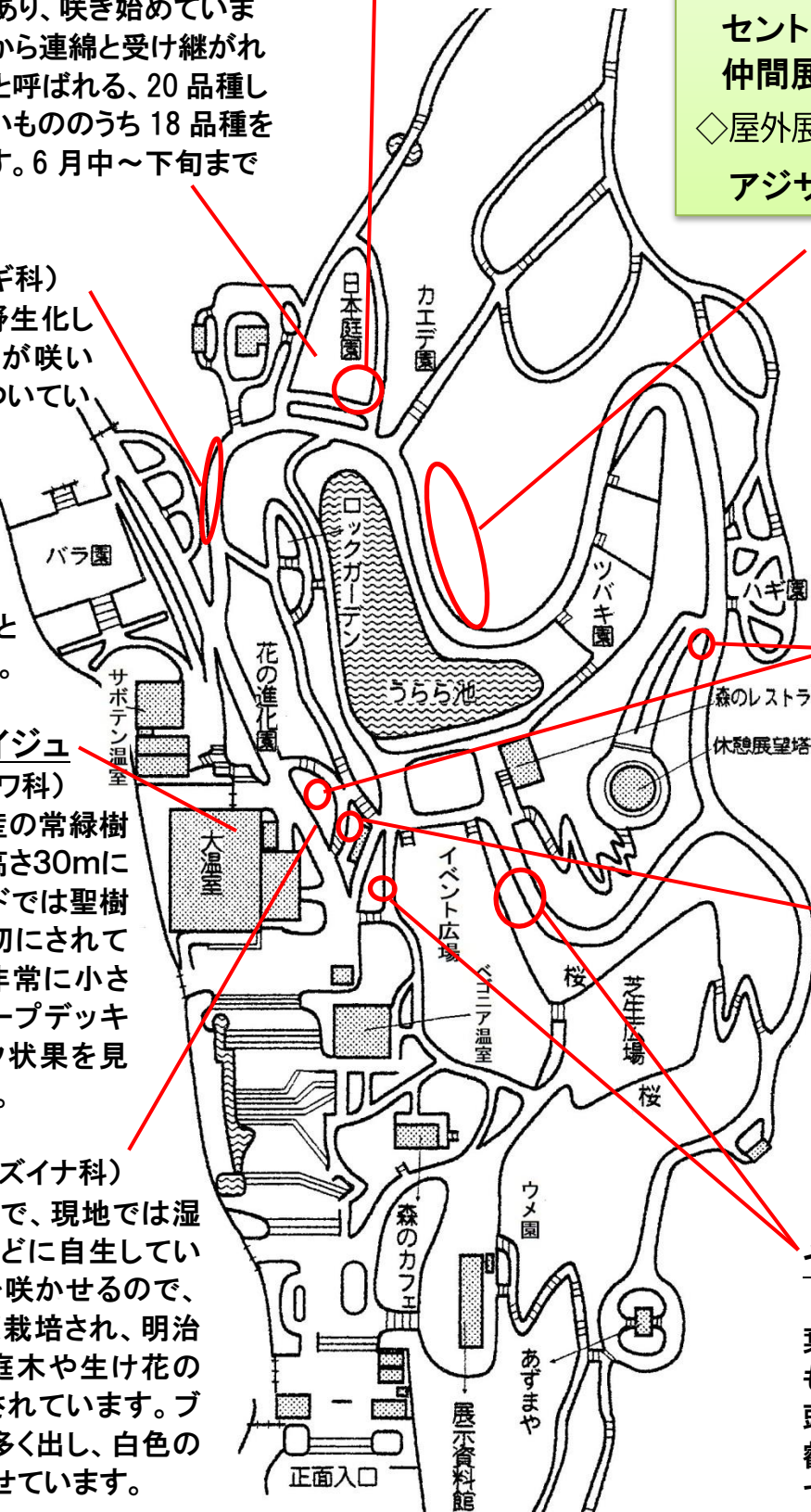
チドリソウ (キンポウゲ科)

花の形が鳥が飛んでいるように見えることから、この名前が付けられました。別名で飛燕草(ヒエンソウ)とも呼ばれています。

ボリュームがあるので、花束などにも使われます。

ヤマボウシ (ミズキ科)

白く花弁に見えるのは、苞葉(ほうよう)で葉が変化したものです。白い苞葉を僧侶の頭巾に見立てて、山法師(比叡山延暦寺の僧兵)と呼ばれています。



✿毎週土・日曜日・祝日 午後1時半~3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内します✿

✿毎月第2火曜日・第4土曜日 午前11時~は、職員による植物うんちくガイドを実施します✿